

第2学年社会科（地理的分野）学習指導案

日 時：令和4年11月9日（水） 5校時

学 級：花巻市立花巻中学校2年5組

会 場：2年5組教室

授業者：小野寺賢郎

1 単元名 第3編 日本のさまざまな地域 第3章 3節 近畿地方～都市・農村の変化と人々の暮らし～

2 単元（題材）について

（1）生徒について

岩手県学習定着度状況調査から『社会が好き』と答えた生徒がクラスの9割と『社会の授業がよく分かる』と答えた生徒が9割、社会の授業が好きで意欲的に取り組んでいる生徒が多い。知識・技能を得ようと静かに集中して授業を受けることができる一方で、話し合い活動において、対話をしながら考えを表現したり、深めたりすることに苦手意識を感じている生徒もいる。

主体的・対話的な深い学びができるようにペア活動やグループ活動を意図的に設定したり、話し合いをしやすいように、ICTの活用、シンキングツールの利用の工夫等を行った。そのことにより、以前よりも前向きに話し合い活動に参加する姿が徐々に見られるようになった。今後も継続して指導をしていくことで対話をしながら考えを表現する力を育成していきたい。

（2）教材について

本単元は中学校学習指導要領の地理的分野の大項目C「日本の様々な地域」を構成する中項目（3）「日本の諸地域」を取り扱う。この中項目は、空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、地域の特色ある地理的な事象を他の事象と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することを主なねらいとしている。学習を通して、日本の諸地域の地域的特色や地域の課題とともに事象間の関係性を理解できるようにさせたい。

（3）指導について・研究との関わり

『主体的に学び続ける生徒の育成』～いわての授業づくり3つの視点からの授業改善～

①学習の見通し

→単元を通した課題の設定と、課題解決のための見通しを持たせるような毎時間の学習課題の設定をする。

生徒が課題解決の見通しを持つことが出来るようICTを活用し、授業の最初に課題の確認と授業で着目するポイントを提示する。

②学習課題を解決するための学習活動

→生徒が「多面的・多角的」な視点で思考しながら、主体的に課題解決に取り組めるような学習活動を行う。

→ICTを利用し、ペアやグループ、全体での対話的な活動を通して「見方・考え方」を働かせながら深い学びを実現する。

③学習の振り返り

→授業全体の流れや単元の学習内容、学習課題の過程など、学んだことを自覚できるようテキスト、シンキングツール、アンケートなどを作成する。

（4）単元（題材）の目標

【知識および技能】

- ・近畿地方について、その地域的特色や地域の課題を理解する。
- ・人口や都市・村落を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。

【思考力、判断力、表現力等】

近畿地方において、人口や都市・村落の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目させ、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察、表現する。

【学びに向かう力、人間性等】

近畿地方について、より良い社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。

(5) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 近畿地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。 人口や都市・村落を中核とした考察の仕方に取り上げた特色ある事象と、それに関する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 近畿地方において、人口や都市・村落の成立条件を、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 近畿地方について、より良い社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

(6) 指導と評価の計画

時	学習課題・学習活動	観点			●評価規準【評価方法】
		知	思	態	
第3節の課題 近畿地方ではなぜ、都市と農村の姿が変化してきたのだろうか。					
1	<p>近畿地方を大きくながめると、どのような特色が見られるでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料を読み取り、地形、気候、人口など基礎的・基本的な知識を身に付ける。 人口、都市、農村に着目しながら章の探究課題を設定し、見通しを持つ。 	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ●地形や気候、産業や人口などの特色を理解し、その知識を身に付けている。〔知・技〕 【ワークシート】 ●人口や都市、農村を中核とした考察の仕方に基づいて設定した章の課題の答えを予想し、見通しをもって主体的に探究しようとしている。〔態度〕 【ワークシート】
2	<p>近畿地方では、『都市』はどのように形成され、どのような課題があるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪大都市圏の成り立ちと人口集中による郊外との結びつきや、阪神工業地帯の発展について理解する。 <p>・大都市の課題について課題解決の取組みについて考察する。</p>	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ●私鉄によって都市と郊外が結びつき、大阪市が形成されたことを理解し、その知識を身に付けている。〔知・技〕 【ワークシート】 ●大都市の工業の特色を、国内外との競争や技術力と関連付けて考察し、表現している。〔思・判・表〕 【ワークシート】 ●大都市の課題を過密や産業と関連付けて理解し、解決している。〔思・判・表〕 【ワークシート】
3	<p>近畿地方の『都市』にはどのような課題があり、どのような解決の取組が行われているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 神戸市の人口の変化に伴う都市の発展や、ニュータウンの建設と埋め立て地による開発とその課題について理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ●人口が集中し過密になった神戸市の市街地の南北を海と山に挟まれた地理的特徴から、ニュータウンが建設され交通網で結びつき地域として開発されたこととその課題を理解している。〔知・技〕 【ワークシート】

	<ul style="list-style-type: none"> 京都市などに見られる伝統文化、歴史的景観の保存と開発について持続可能性の視点から考察する。 		○		<ul style="list-style-type: none"> 京都市の景観の保存の意義と課題について、そこに暮らす人々の生活・文化、地域の伝統や歴史的背景、地域の持続可能性な社会作りを踏まえた視点で考察している。 〔思・判・表〕 <p>【ワークシート】</p>
4	<p>近畿地方の『農山村』にはどのような課題があり、どのような解決の取組が行われているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 村の産業の衰退から人口が減少した川上村の地理的特徴を生かした村の活性化の例や生活の工夫を理解する。 過疎化の課題をかかえている和東町が、人口の減少を食い止めるための取組について考察する。 	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 産業の衰退と人口の減少が結びついていることを理解し、村の活性化の例や過疎地域の生活の工夫を理解している。 〔知・技〕 <p>【ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 和東町の産業を生かした地域ブランドの例から、過疎地域の産業を生かした活性化の取組を考察している。 〔思・判・表〕 <p>【ワークシート】</p>
5	<p>章の探求課題『近畿地方ではなぜ、都市と農村の姿が変化してきたのだろうか』に対するまとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでに習ってきた知識や考えを基に人口に着目し、章の探求課題と関連して考え、振り返り、理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> これまでに学習した地域的な特色やそこで生ずる課題などを、人口の移動や地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目し、シンキングツールを使いまとめて振り返り、理解している。 〔知・技〕 <p>【シンキングツール（キャンディチャート）】</p>
6 本時	<p>移住する地域での課題を解決し、よりよい地域を創るための取組を考え発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ロイロノートを活用し、移住する地域の良さと課題解決の取組をまとめ、発表する。 	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 移住する地域の良さを再確認している。 〔知・技〕 <p>【共有ノート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 移住する地域の課題を解決するための取組を考え、まとめ、発表することができる。 〔思・判・表〕〔態度〕 <p>【共有ノート】【テキスト】</p>

3 本時について

(1) 目標

人口の移動、地域の広がり、人々の対応などに着目して、よりよい地域創りの実現に向けて地域の課題を解決するための取組を考え、まとめ、発表する。

(思・判・表)(態度)

(2) 評価規準

- 移住する地域の良さや課題を再確認している。(知・技)
- 移住する地域の課題を解決するための取組を考え、まとめ、発表することができる。(思・判・表)(態度)

(3) 本時の指導構想（研究主題との関わり）

- 学習過程において、「いわての授業づくりの3つの視点」を取り入れながら、授業を展開する。特に、学習課題を解決するための学習活動の中に、本単元の見方・考え方である『人口の移動(増減)や地域の広がり、人々の対応など』に着目して、ICTを活用し、対話的な学びを通して課題解決のための取組を考え、まとめ、発表できるようにグループ活動を設定する。

(4) 展 開

段階	学習内容・学習活動	指導上の留意点	☆研究とのかかわり ●評価
導入 7分	1 人口の増減による都市と農村の課題のまとめを確認する。 2 移住先を生徒に提示し、学習課題の確認をする。	・前回のまとめプリントを使用し、人口の増減による都市(大阪、神戸、京都)、農村(川上村、和束町)の課題と解決策を確認させる。	
展 開 3 5分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 学習課題 移住する地域での課題を解決し、よりよい地域を創るための取り組みを考え発表しよう </div> 3 本時の授業の流れの見通しを持つ。 4 4人グループでロイロノート(ICT)を活用し、移住する地域の良さと課題解決の取組をまとめる。 ①移住する地域の良さを再確認しながらテキストにまとめる。 ②移住する地域が抱えている課題を再確認しながらテキストにまとめる。 ③グループで話し合いながら、よりよい地域を創るための新たな取組を考えまとめる。 5 移住先のよりよい地域創りのための取組を発表する。 ・グループ毎に新たな取組を発表する。	・花巻市を例にして地域の良さ、抱えている課題、課題解決の取組についてのまとめ方を理解させる。 ・ロイロノートの共有ノートを活用し、他の人が捉えている良さを共有し考えを広めさせる。 【ICTの活用】 ・ロイロノートの共有ノートを活用し、他の人が捉えている課題を共有し考えを広めさせる。 【ICTの活用】 ・人口の移動、地域の広がり、人々の対応などに着目させ課題を解決し、よりよい地域を創り上げるための新たな取組について考えさせる。 【主体的・対話的な学び】【ICTの活用】 ・様々な都市や農村の取組を聞かせることで、自分の考えを広げ、深めさせる。 【ICTの活用】	☆見通し 課題解決の取組を考えている。 ☆学習活動 学習課題を解決するための学習活動。他の人の考えと自分の考えを交流させ、根拠を持って話し合い、まとめている。 ●移住する地域の良さや課題を再確認している。〔知・技〕 【共有ノート】 ☆対話的な活動 ●移住する地域の課題を解決するための新たな取組を考え、まとめ、発表することが出来る。 〔思・判・表〕〔態度〕 【共有ノート】 【テキスト】
終 末 8分	6 本時の振り返り ・自分が移住したいと思った地域の発表に投票する。 7 振り返りシートで本時の学習の振り返りを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> まとめ(生徒の記述例、大阪市の場合) 大阪市には教育、レジャー施設、交通網が整っているという良い点があります。課題としては人口の集中による過密化が挙げられます。その課題を解決する取り組みとして私たちは、埋め立て地を作りそこに住宅地や学校、スーパーやレジャー施設をまとめて建設し、都市と交通網でつなげることで大阪市の人口を分散させるという取り組みを考えました。 </div>	・発表内容が地域の課題を解決し、よりよい地域にするための取組であるかを考えさせ、投票させる。	☆振り返り アンケートで投票することを通して、課題を解決し、よりよい地域にするための取組であるか振り返る。 【振り返りシート】

